方言を取り入れた歌謡曲に関する一考察

岩崎 真梨子[†]・三浦 華子[††]

A study on popular song which utilized a dialect

Mariko IWASAKI[†] and Hanako MIURA[††]

ABSTRACT

In late years there are popular songs which converted a popular song of the common language into a dialect. They were broadcast on TV and came to be known to people. In this study, we investigated the popular song which adopted a dialect.

It is thought that the popular song which adopted a dialect exists nationwide except some areas. The popular song which adopted a dialect exists a lot in the area that the residual rate of the dialect is high in. For example, the text of the Kyushu dialect and the northeastern dialect was found.

Then, about the interest in dialect and the image of the popular song which adopted a dialect, I carried out the questionnaire with a youth residents in Hachinohe-shi. In them, there are people having negative consciousness for the dialect of own. On the other hand, they have interest towards a dialect as the entertainment.

Key Words: *dialect, popular song, questionnaire, dialect of the youth*

キーワード : 方言，歌謡曲， アンケート，若者と方言

1. はじめに

今、方言は、看板やお土産など、様々なところに活かされている。

方言は、歌謡曲にも取り入れられている。本稿では、特に、もともとは共通語で作られた歌詞を方言に変換する事例に着目する。たとえば、次のようなものである（方言化された部分に下線、【　】内に元の歌詞、[　]内に曲名を記す）。

(1)　あああばんげだげ　あああばんげだげ
【ああ今夜だけ　ああ今夜だけ】
はぁなもかもともらねぇ
【もうどうにもとまらない】
[どうにもとまらない]

これは、「どうにもとまらない」（唄　山本リンダ）を津軽弁に変換したものである。テレビ朝日「全日本なまりうたトーナメント」において放送され、番組ではこういった歌詞を方言に換えた歌謡曲を「なまりうた」と呼んでいる。「なまりうた」は、既存の歌謡曲の歌詞を方言に換えて歌う、いわゆる替え歌である。番組名に「トーナメント」とある通り、各地域の一般参加者が A から D までのブロックに分かれ、「なまりうた」を歌唱し審査員によって審査される。まず予選で各ブロックの代表者を決

平成 27 年 1 月 8 日受付

† 感性デザイン学部感性デザイン学科・助教

†† 感性デザイン学部感性デザイン学科・3 年生

定し、予選を勝ち抜いた 4 名で決勝戦が行われ、優勝者が選ばれるという運びである。

本稿では、(1)のような方言を取り入れた歌謡曲について調査、分析し、その実態や受容について検討する。3 節から 6 節までは、方言を取り入れた歌謡曲の実態を調査する。また、歌詞の具体例を挙げる。7 節では、方言を歌詞に取り入れた歌謡曲が、若者にどのようなイメージを持たれるかについてアンケートを実施し、結果を示す。

2. 先行研究

2-1. 方言の活用

方言に関する先行研究は数多くある。日常生活や娯楽に取り入れられる方言についても、既に幾つかの先行研究が見られる。

井上史雄ら(2013)では、方言を使用した東日本大震災復興の方言エール、メッセージ、看板やポスター、店名、みやげ、グッズなど、全国および全世界に広がる方言の文字資料を収集し、掲載されている。

著者のひとりである田中宣寛氏は、「方言エール」を取り上げられている。方言エールは、

> 被災者や復旧支援者が、各地の地域語で、復興の方言メッセージを掲げ、精神力を高め、体力を振り絞り、不自由な生活のなか奮闘しています。この活用法を「方言エール」と呼びます。

のように記述されている。たとえば、八戸仙台間を走る高速バスの後ろに「けっぱれ！東北!!」という「方言エール」が書かれており、写真が紹介されている。他にも、方言の活用された商品等が様々紹介されている。

九州方言研究会(2009)では、九州方言の看板が挙げられている。たとえば 17 頁には、「事故を起こすなんちなんとん知れん」という交通安全の看板が挙げられており、その隣に＜「事故を起こすなんてとんでもない」九州方言は音の変化が面白い。＞と、共通語ならびに解説が付されている。

井上史雄ら(2013)にもある通り、方言は一般に話し言葉であり、音声として伝えられるものだが、先行研究の写真にも取り上げられている通り、文字に記され、視覚化されるようになった。先行研究にある「方言エール」や交通安全の看板は、面白さももちろんあるが、その地域で活用され、実用的な面を持っていると考えられる。

他に、小説や漫画にも、しばしば方言が活かされる。金水敏(2003)では、方言のステレオタイプについて言及されている。たとえば漫画で大阪弁・関西弁を話すキャラクターには、

1　冗談好き、笑わせ好き、おしゃべり好き
2　けち
3　食通、食いしん坊
4　派手好き
5　好色、下品
6　ど根性（逆境に強く、エネルギッシュにそれを乗り越えていく）
7　やくざ、暴力団、怖い

といった性質が期待されるとある。大阪弁・関西弁を話すキャラクターは、これらのうちどれか一つ、あるいは二つ以上の特徴を持っているとされる。

また、田中ゆかり(2011)で指摘されている「方言コスプレ」にも注目したい。「方言コスプレ」は、

> 話し手自身が本来身につけている生まれ育った土地の「方言」（生育地方言）とは関わりなく、日本語社会で生活する人々の頭の中にあるイメージとしての「〇〇方言」を、その場その場で演出しようとするキャラクター、雰囲気、内容にあわせて臨時的に着脱することを指している。(p.3)

のように定義されている。「〇〇方言」を演出することで、田舎っぽいとか男らしいといった、キャラクターになりきることができるのである。

こういった漫画のなかの方言や「方言コス

プレ」では、実際の方言よりも方言のステレオタイプやイメージが重視される。従って、実際の関西人が先に挙げた１～７に当てはまるか否かや、方言のイメージと現地の人の人間性とが一致するかは問題ではない。方言の面白さ、娯楽という面に着目された研究であると思われる。

以上の通り、書き言葉における方言の研究は、「実用的で、人々の心に温もりや支え、面白さを与えるもの」や、「どちらかというと娯楽に特化したもの」の両方の側面から進められていると考えられる。

それでは、歌謡曲の歌詞に方言が用いられている事例は、どうなるのだろうか。先述した「全日本なまりうたトーナメント」の出場者は、自らの出身地の方言で歌詞を作っているようなので、田中ゆかり(2011)に定義される「方言コスプレ」とは異なる。また、自身の出身地域の方言を活かすものであって、ステレオタイプやイメージを前面に押し出すものでもなさそうに思われる（ただし、調査していくと、日常的に使う方言ではない歌詞や、出身地以外の方言を使った歌詞も見られ、コスプレ的要素も少なからず含んでいるようである）。娯楽に位置づけられると推測されるが、どういった印象を与えるのか、効果があるのかといった点を明らかにしたいと考える。

歌謡曲の場合は、先行研究に挙げられている高速バスの表記や商品名、看板などに比べると、放送時間が限定されており、映像としては残るものの保存性は劣る。録音や録画といった技術によって、音声資料を残しやすい時代になってはいるが、方言を取り入れた歌謡曲に関しては、活字化し検証する余地が残されているのではないかと考える。

以上のことから、これまであまり言及されていないように思われる方言を取り入れた歌詞の検討を試みたいと考えた。

2-2. 方言に対するイメージ

近年、方言が看板やお土産のデザインに活かされたり、歌謡曲に取り入れられたりするようになるまでには、どのような社会的背景があるのだろうか。本節では、これまで「方言」が社会においてどのように受け入れられてきたか、田中ゆかり(2011)を参照し、確認する。

田中氏は、1950 年代から 2000 年代までの「ことば」についての新聞記事と投書から、世論の流れをたどっている。

まず、1950 年代から 1970 年代までは、方言を「恥ずかしいもの」として捉えるいわゆる「方言コンプレックス」（柴田武(1958)）に関する記事や投稿が目立つと述べられている。

一方で、1950 年代でも既に＜「方言」を「大切にすべきもの」「保存すべきもの」と捉える感性＞はあるとされるが、やはり「方言コンプレックス」的感覚は 1970 年代まで残るようである。

しかし、1980 年代以降、「方言コンプレックス」に関する記事・投稿は減少する。さらに、方言を恥ずかしいものとするのではなく、＜「方言テレビ CM」や「方言テレビドラマ」などのマス・メディアにおける方言の不正確さに対する批判や、「方言」を娯楽的に用いる「方言おもちゃ化」に対する批判＞が目立つようになる。

1990 年代になると、「注意をするときは大阪弁」のような「方言コスプレ」に関する記事も見られるようになる。

2000 年代、方言は「ブーム」として取り上げられる。「方言コスプレ」はもちろん、方言が娯楽として広く受け入れられるようになる。

今現在、「なまりうた」のような方言を取り入れた歌謡曲が人口に膾炙するのも、そうした「方言ブーム」に則ったものであろう。この傾向を踏まえたうえで、本稿では、方言を取り入れた歌謡曲について、どういった曲が存するのか、方言はどのように活かされているのか、方言で歌うことがどのようなイメージをもたらすのか、とりわけ若者がこうした方言を取り入れた歌謡曲を聴いてどういったイメージ、感想を

持つのかについて調査した。

3. 全国の方言を取り入れた歌謡曲

全国の方言を取り入れた歌謡曲は、インターネットで検索をかけると、少なからず見つかる。現在、各都道府県につき 1〜10 程度の曲を確認できる。以下、本稿では仮に、こうしたもともと共通語だった歌詞に方言を取り入れて方言化したものを方言化歌謡曲と呼ぶことにする。

検索サイトは Google(https://www.google.co.jp/) を用い、「方言　歌」や「なまりうた」あるいは「〇〇弁　歌」といった単語で検索を試みた。以下、方言化歌謡曲が見られる地域を、多い地域（5 曲以上確認できる）を青色、まったく見られない地域（0 曲。現在見つかっていない）を赤色、それ以外（1 曲から 4 曲まで確認できる）を桃色に分けると、次の通りとなる。

まず、方言を取り入れた歌謡曲が多く見られるのは、北から青森県、山形県、京都府、広島県、熊本県、鹿児島県、沖縄県である。また、関西弁の方言化歌謡曲も 5 曲以上確認できたが、これは都道府県を特定できないため水色で示した。

一方、今現在、方言を取り入れた歌謡曲が 1 曲も見つかっていないのは、東京都、神奈川県、長野県、鳥取県の 4 都県である。

この結果から、都市部よりは周辺地域に方言化歌謡曲が多く見られること、関西弁や広島弁のような、一種の「ステレオタイプ」を持つと思われる地域に偏って見られることが推測される。

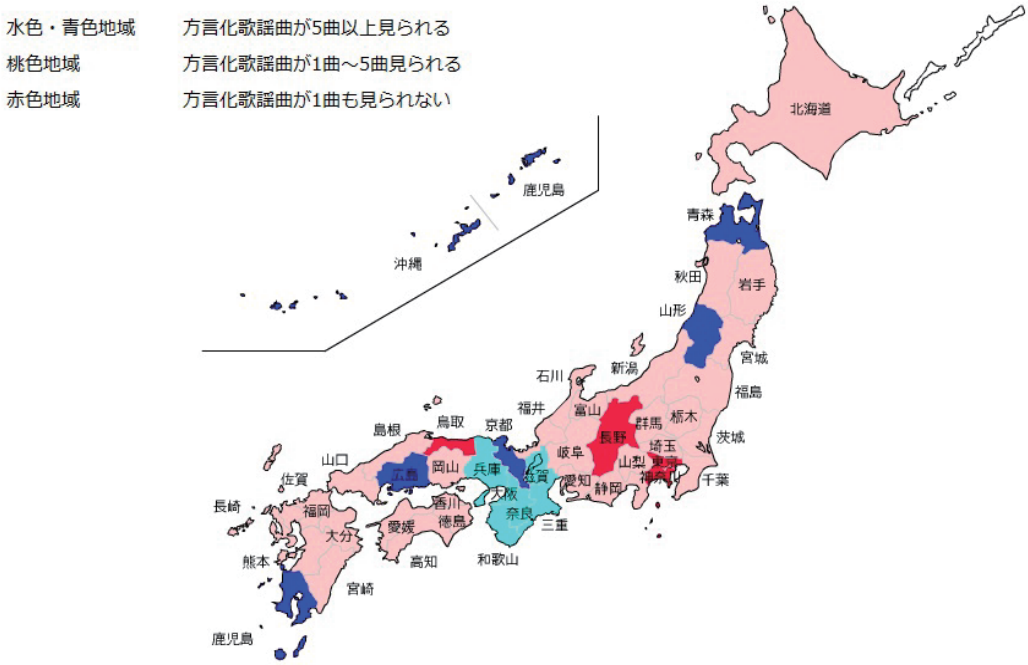

図 1　方言を取り入れた歌謡曲が見られる都道府県

また、**図 1** の結果は、方言が強く残る地域とも関連しそうである。真田信治(2002)は、国立国語研究所による『日本言語地図』[1]を用いて、各地の方言残存率を示している[2]。次の**図 2・図 3** をあわせて参照されたい。

図 2 によると、方言語形の残存率がもっとも高いのは沖縄で、96.7%の平均分布率である。

図 2・図 3 の結果と**図 1** を照らし合わせると、方言残存率の高い都道府県上位 10 以内に、方言を取り入れた歌謡曲が多く見られる沖縄・鹿児島・青森・山形・熊本が挙がる。また、広島も上位 20 以内に含まれる。ただし、「京都」は下位 15 以内であり、必ずしも残存率の高い地域に限らないことが明らかである。

一方、今回の調査では方言を取り入れた歌謡曲がまったく見られなかった東京・神奈川・長野は、方言残存率の下位 10 以内に含まれる。ただし、こちらにも例外がある。鳥取は上位 20 から 30 の間、中間辺りに位置するが、現時点では方言を取り入れた歌謡曲は見当たらない。

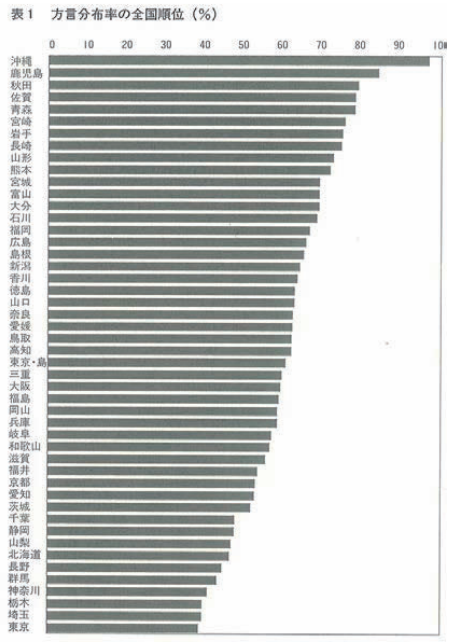

図2　方言が強く残る県別ランク 出典 真田(2002)p.15

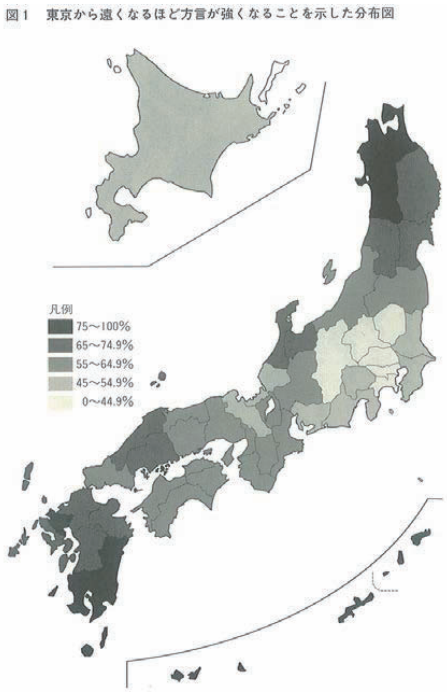

図3　残存率の分布傾向 出典 真田(2002)p.17

[1] 1957 年～65 年までの 9 年間、全国 2400 箇所の調査地点へ研究員たちが赴き、土地の老年層(明治 36 年以前生まれの男性)から直接方言を聞き取ることで集められた資料。

[2] アトラスから抽出した 82 項目の言語分布地図を対象とし、82 項目の個々の図について、対象地点で方言語形（＝非標準語形）が出現する地点をひとつずつ数え、都道府県ごとに集計し、それぞれの県における全調査地点数に対する方言語形の出現地点数の割合（方言語形残存率）を算出したもの。

4. 方言を取り入れた歌詞に関する考察

さて、方言を取り入れた歌謡曲の歌詞は、具体的にどのようなものなのか。ここでは、「全日本なまりうたトーナメント」で実際に取り上げられた方言歌謡曲の歌詞、および、もともと方言で作られた歌詞について分析する。

なお、共通語の歌詞と方言の歌詞は必ずしも意味が完全に一致するわけではないため、方言の意味については佐藤亮一(2009)を参照した。

4-1. 全国の方言化歌謡曲

ここでは、特に方言化歌謡曲が多く見られる地域を中心に、「全日本なまりうたトーナメント」で放送された歌謡曲の曲名ならびに歌詞の一部を具体例として挙げる。「全日本なまりうたトーナメント」は、テレビ朝日で 2013 年 1 月 1 日に第 1 回が放送された。その後、2013 年から 2014 年にかけて約半年に 1 回、計 3 回放送されている。

なお、番組で放送された歌詞ならびに曲名の掲載については、番組の許可を取って行っている。また、JASRAC の歌詞掲載許諾番号は付記に記す。

まず、東北地方の歌詞を挙げる。以下は、5 曲以上の方言化歌謡曲が見られる青森方言（津軽弁）の「ハナミズキ」（唄　一青窈）の歌詞である。

(2)　たのむはんで来てけじゃ
【どうか来てほしい】
水際っこまで来てけろじゃ
【水際まで来てほしい】　[ハナミズキ]

(3)　うすくてあげぇ　めげぇおめぇのや
【薄紅色の　可愛い君のね】
うだでぇ夢っこぁきぢっと
【 果てない夢がちゃんと】 [ハナミズキ]

(4)　終わるようにな　おめぇど好きだふとが
【終わりますように　君と好きな人が】
百年続ぐようにな
【百年続きますように】　[ハナミズキ]

(2)の「たのむはんで」は共通語で「頼むから」となり、「どうか」に相当する表現である。(3)の「うすくてあげぇ」は共通語で「薄くて赤い」であり、「薄紅色」に相当する。その他は「めげぇ（可愛い）」「おめぇ（君）」「うだでぇ（果てない）」「ちゃんと（きぢっと）」のように対応する。(4)の「ふと」は共通語で「人」である。これは、日常ではあまり使用されないのではないかと思われる。

また、(2)の「水際っこ」や(3)の「夢っこ」のように、東北地方では名詞に「(っ)こ」をつける場合がある。

(2)～(4)に共通して、カ行・タ行を濁音化している。「きぢっど」「おめぇど」「好きだ」「続ぐ」が挙がる。これも、東北方言の顕著な特徴である。なお、「好きな人」が「好きだ人」となることについては、佐藤亮一(2009)に、「青森県では形容詞の仮定形と形動同士の連体形は活用せずに、終止形がそのまま使われる」(p.23)と記述される。

続いて、同じく東北地方で 5 曲以上の方言化歌謡曲が確認できる山形弁の「タッチ」（唄　岩崎良美）の歌詞を挙げる。

(5)　お願い　タッチ　タッチ　ここさタッチ
【お願い　タッチ　タッチ　ここにタッチ】
あなたから　ちょす
【あなたから　タッチ】　[タッチ]

(6)　手ば伸ばして受け取ってけろ
【手を伸ばして受け取ってよ】
溜め息の数だけ束ねだブーケ
【溜め息の数だけ束ねたブーケ】 [タッチ]

(5)では、「ここに」が「ここさ」となっている通り、場所を表す助詞「に」が「さ」となる。また、「ちょす」は動詞で「触る」「からかう」といった意味を表す。八戸市で用いられる南部方言でも、「携帯ちょすな（携帯電話を

いじるな）」のように、「触る」の意味で用いられる。 (6)では、動作の対象を表す助詞「を」が「ば」に換えられている。また、津軽弁と同じくカ行・タ行が濁音化している。

(2)～(4)の津軽弁「ハナミズキ」に比べると、山形弁「タッチ」は助詞やカ行・タ行の清濁の変換となっている。単語レベルで変換されているのは、「（受け取って）けろ」や「ちょす」程度である。一方で、歌唱の際に重要な部分を方言にするといった工夫が見られる。

次に近畿地方の方言化歌謡曲を挙げる。**図 1**の通り、関西弁を取り入れた歌謡曲は少なからず見られるが、都道府県別で確認できるのは、今回の調査では京都弁のみであった。以下、京都弁の「飾りじゃないのよ涙は」（唄　中森明菜）を挙げる。

(7) うちは泣いたことあらへん
【私は泣いたことがない】
行燈の消えた街角で
【灯の消えた街角で】
速い車に乗せられても
【速い車にのっけられても】
急にわやくちゃにされても怖くあらへん
【急にスピンかけられても怖くなかった】
[飾りじゃないのよ涙は]

(8) 飾りやあらへん涙は　HAHAN
【飾りじゃないのよ涙は　HAHAN】
はんなりするならええけど　HOHO
【好きだと言ってるじゃないの　HOHO】
[飾りじゃないのよ涙は]

京都弁は、人称代名詞「私」が「うち」となり、打ち消し「ない」が「あらへん」と換えられている。また、「灯」や「スピンをかける」といった表現を、「行燈」や「わやくちゃ（めちゃくちゃ）」といった表現に換えている。(8)では、歌詞が大幅に変更されている。「好きだと言ってるじゃないの」は「はんなりするならええけど」となっており、元の歌詞があまり反映されていない。

次に、中国地方で唯一方言を取り入れた歌謡曲が 5 曲以上見られる広島弁の「三日月」（唄　絢香）の歌詞を挙げる。

(9) われも見とるんじゃろう
【君も見ているんだろう】
消えかけとる三日月
【この消えそうな三日月】　[三日月]

(10) つながっとるけぇのって
【繋がっているからねって】
愛しとるけぇのって
【愛してるからねって】　[三日月]

人称代名詞である「君」を「われ」としている。アスペクトを表す「テイル」は、広島を含む広い範囲の中四国地方で「トル」の形を取る。また、「だろう」や「～だ」の「だ」が「じゃ」となる。また、(10)では原因・理由を表す「～から」を「～けぇ」としている。

最後に、九州地方の「なまりうた」の歌詞を挙げる。以下は、宮崎弁「SAY YES」（唄　CHAGE & ASKA）の歌詞である。

(11) ちぃーっとくらいの嘘やワガママも
【少しくらいの嘘やワガママも】
まるで僕をためしちょるごつある
【まるで僕をためすような】 [SAY YES]

(12) なんぼでん言うじ
【何度も言うよ】
君は確かに　僕をてげ愛しちょる
【君は確かに　僕を愛してる】
[SAY YES]

「テイル」を「チョル」とし、「ような」を「ごつ」とする点に、九州方言の特徴が表れている。また、(12)では、特に歌詞内に「てげ（とても）」という程度副詞が付け加えられている点に着目される。本来ならば「てげ」に相当する歌詞はないのだが、方言化歌謡曲ではしばしばこのように歌詞の一部が変更されるという特徴がある。

続いて、熊本弁と鹿児島弁の「なまりうた」を挙げる。まずは熊本弁の「想い出がいっぱい」（唄　H2O）の歌詞を挙げる。

(13) 古かアルバムん中に

【古いアルバムの中に】
見えんごて想い出がおもさん
【隠れて想い出がいっぱい】
むぞらしか笑顔んなかの
【無邪気な笑顔の下の】
日付は遠かメモリー
【日付は遙かなメモリー】
[想い出がいっぱい]

(14) 大人ん階段上がる
【大人の階段昇る】
あたはまだおてもやんさい
【君はまだシンデレラさ】
幸福はだっかがきっと
【幸福は誰かがきっと】
運んでくっと信じとるとね
【運んでくれると信じてるね】
[想い出がいっぱい]

(13)では、「古か」「むぞらしか」「遠か」のように、形容詞がカ語尾にされている。「見えんごて」の「ごて」は「ごつ」が変化したもので、共通語では「見えないように」となる。「いっぱい」を「おもさん」とするなど、単語レベルで変換されている。(14)では、「たい」や「信じとると」、また格助詞「の」が「ん」に変わるといった、九州特有の方言が用いられている。また、京都弁や広島弁、熊本弁、鹿児島弁でもあったように、人称代名詞を方言にしている。

また、(14)で着目されるのは、「シンデレラ」を「おてもやん」と表現する点である。先の京都弁「飾りじゃないのよ涙は」と同様、意訳に近い変換であると考えられる。「おてもやん」は熊本民謡に登場する女性で、頬紅が濃い女性を意味することもある。ここでは、幸せを夢見る成長途中の女性を意味しているように思われる。

続いて、鹿児島弁「待つわ」（唄　あみん）の歌詞を挙げる。

(15) 青かでけぇこん空
【青く広いこの空】
だいのもんでもなかよ
【誰のものでもないわ】
風にちびっとの雲
【風にひとひらの雲】
流して流されっせー
【流して流されて】　[待つわ]

(16) あたい待っちょいよ
【私待つわ】
どひこでん　待っちょいよ
【いつまでも待つわ】
たとえおまんさぁがふりむいちくれんでも
【たとえあなたが振り向いてくれなくても】　[待つわ]

鹿児島弁の「待つわ」も、熊本弁の「想い出がいっぱい」と同様、形容詞がカ語尾になり、格助詞「の」が「ん」になるという変換が行われている。ただし、この(15)では「この」「もの」といった指示詞や名詞の「の」が「ん」とされている。(16)は、人称代名詞のほか、「待つわ」が「待っちょいよ（待っているわ）」、「いつまでも」が「どひこでん」と換えられている。

沖縄弁の方言化歌謡曲については、残念ながら今回は掲載許可の降りるものがなかったため、4-4 で取り上げる。

4-2. 津軽弁の方言化歌謡曲

4-1 では、全国で方言を取り入れた歌謡曲が多く見られた地域の歌詞を見てきた。ここからは、東北地方、特に青森県の方言歌詞を取り上げる。

津軽弁の方言化歌謡曲は、「全日本なまりうたトーナメント」第 1 回と第 3 回で優勝しており、審査員や視聴者の心を惹きつけているのではないかと思われる。以下、津軽弁による方言化歌謡曲の一部を挙げ、どういった点に興味が集まるのかについて検討する。

たとえば、第 3 回では、次のような方言歌詞が見られた。曲は「熱くなれ」（唄　大黒摩季）である。

(17) みないぐど　みないぐど　みないぐど

かだれ
【Everybody go, everybody go, everybody go fire way】
変わりてが？　変わりてべ？　みなしてほれいぐど！
【Do you wanna change, do you wanna change Changing, he we go!】
[熱くなれ]

(17)では、英語の歌詞を方言の歌詞に換えている。津軽弁は、第 1 回でも「プレイバック Part2」の「Play Back」を「戻りへ」と変換していた。(11)(12)に挙げた「SAY YES」をはじめとして、英語部分は英語のままという方言化歌謡曲もある。作詞する者がどこまで換えるかといった個人の感覚を反映されるところだが、工夫すればあらゆる歌詞を換えられる点に、津軽弁方言化歌謡曲の強みがあると思われる。

また、繰り返しになるが、共通語との隔たりも重要であると考えられる。次は、(1)でも取り上げた「どうにもとまらない」（唄　山本リンダ）である。

(18)　うわさば信じればまいね
【うわさを信じちゃいけないよ】
わの心はめぐさがり
【私の心はうぶなのさ】
[どうにもとまらない]

(19)　ばんげはたげあげバラば抱き
【今夜は真っ赤なバラを抱き】
さがしい子と踊るべか
【器量のいい子と踊ろうか】
んでねぐやさしけだあのふとさ
【それとも優しいあの人に】
熱い気持ぢっこあげるべか
【熱い心をあげようか】
[どうにもとまらない]

(18)の「まいね」は、津軽弁で禁止を表し「いけない」に相当する。また、「わ」は「私」、「めぐさがり」は「恥ずかしがり」である。また、「信じては」のような順接仮定条件表現において、青森方言では専ら「～ば」の形が用いられる。 (19)でも、歌詞の多くが方言に換えられている。ばんげ（夜）、たげ（とても）、あげ（赤い）、さがしい（賢い）、やさしけだ（優しい）、ふと（人）など、名詞・副詞・形容詞・形容動詞に亘り、また、「踊るべか」「あげるべか」と助動詞も方言化される。「んでねぐ」は共通語では「そうでなく」のようになる。

(17)～(19)の例からも明らかな通り、津軽弁の方言化歌謡曲は、共通語からの隔たりも大きく、方言化する箇所が多くなるという特徴がある。こういった点に、興味関心が集まったり、面白さが演出されたりするのではないだろか。

4-3. 八戸弁の方言化歌謡曲

八戸弁の歌詞は、「全日本なまりうたトーナメント」ではまだ見られない。しかし、2014 年 10 月 28 日ならびに同年 11 月 1 日の「デーリー東北」において、「続おらホが主役だ！～南部愛こそすべて」というタイトルの記事で、八戸弁（南部弁）の台詞や歌詞が紹介されている（下線は岩崎による）。

> 何でも凍らせてしまう魔力を持つエルサ王女は、その制御不能な能力に悩み、氷の城にこもる。そこへ、妹・アナが、説得にやって来る場面。
> 「ねえ、二人で山ば降りるべし！　おっかながんねえで」とアナ。対してエルサは「お願いだ。帰ってけれ」と優しく断る。「したって…」と切り返すアナに、エルサは「いいすけ」と拒絶する。
> ここまで 51 秒だが、既にハートわしづかみ。八戸弁とはこれほど萌える方言だったのかと気づかされること必至。
> (「デーリー東北」2014/10/28　執筆 石橋春海)

方言部分を共通語にすると、「ねえ、二人で山を降りようよ！　怖がらないで」「お願いよ。帰ってちょうだい」「でも…」「いいから」のようになる。他にも、次のような台詞、歌詞が

挙げられている。

部屋から出てこない姉エルサをアナが誘い出そうとする場面。
「雪だるまこへるべ　ドア開けてけろじゃ」とアナ。エルサは「あっちゃいけ！ごんぼほんな」と一喝。「八食さ行くべ」、「頑張れ光星！」といった遊び心いっぱいのフレーズも飛び出す。
(「デーリー東北」2014/11/1　執筆 石橋春海)

こちらは、「雪だるま作ろう　ドアを開けてちょうだい」「あっちへ行って！　だだをこねないで」、続いて「八食へ行こう」となる。「ごんぼほる」は「だだをこねる」意とされる。

「八食」「光星」といった言葉も、方言化歌謡曲の特徴の1つとして重要である。方言化歌謡曲には、しばしば、その地域で有名なものが用いられる。この記事の「八食」や「光星（八戸学院光星高等学校野球部）」は、八戸市の住民には周知の有名スポット、高校野球の強豪校である。「遊び心いっぱいのフレーズ」とある通り、地元住民にとっては興味を掻き立てられる内容なのではないかと思われる。「全日本なまりうたトーナメント」でも、熊本弁歌詞の中にその地域で運行している列車の名前が用いられたことがある。

4-4. 方言で歌われる歌謡曲

さて、ここまでに見てきた方言化歌謡曲は、共通語の歌詞を変換したものであった。他方、もともとが方言、あるいは方言らしい言葉で作られている曲も存する。

以下は、吉幾三「俺(お)ら東京さ行ぐだ」の一部分である。

(20)　テレビも無え　ラジオも無え
自動車もそれほど走って無え
ピアノも無え　バーも無え
巡査毎日ぐーるぐる
俺らこんな村いやだ　俺らこんな村いやだ
東京へ出るだ
東京へ出だなら銭コア貯めで
東京で牛飼うだ　[俺ら東京さ行ぐだ]

作詞の吉幾三氏は青森県北津軽郡出身である。一方、歌詞は必ずしも津軽弁に限られない。「ない」が「ねえ」になる、名詞に「(っ)こ」をつける、「牛」を「べこ」と言うのは、青森県ないし東北地方の方言である。また、一人称「おら」についても、津軽地域では「わ」、下北地域では「わい」といった他の一人称が存在する。これは、津軽弁で歌うことを旨としているわけではないためではないかと思われる。

続いて、THE･BOOM「島唄」の歌詞を挙げる。この曲は、共通語の歌詞（オリジナル・ヴァージョンとされる）と沖縄弁の歌詞（ウチナーグチ・ヴァージョンとされる）の両方があり、一般に知られるのは共通語の歌詞である。ここでは、沖縄弁の歌詞を取り上げる。

(21)　でいごの花が咲き　風を呼び 嵐が来た
くり返すくぬ哀り　島渡る波ぬぐとぅ
ウージぬ森であなたと出会い
ウージぬ下で千代にさよなら　[島唄]
島唄ぐぁ風に乗り　鳥とともに 海を渡れ
島唄ぐぁ風に乗り
届けてたぼれわんくぬ涙ぐぁ　[島唄]

「この」が「くぬ」、「あわれ」が「あわり」、「（波／ウージ）の」が「（波／ウージ）ぬ」となるなど、音の変化が見られる。「届けておくれ」が「届けてたぼれ」、「私の」が「わんくぬ」となっており、単語レベルでの変換も行われている。しかし、一方で、「でいごの花」は「でいごぬ花」とはならない。共通語を保つ部分と、そうでない部分が見られる。

沖縄弁「島唄」の場合は、「俺ら東京さ行ぐだ」に比べて、共通語の歌詞が分からなければ意味が通じない変換もあるように思われる。しかし、「島唄」には沖縄弁歌詞と共通語歌詞が

あり、後者が知られていれば沖縄弁の歌詞が単語レベルで変換されていても視聴者に理解されると考えられる。なお、「島唄」を作詞した宮沢和史氏は山梨県出身であり、沖縄弁を日常的に用いているとは考えにくい。この点、出身地域の方言を活かして作詞する方言化歌謡曲とは異なっている。

また、「全日本なまりうたトーナメント」で山形弁の「なまりうた」を歌った朝倉さや氏は、山形弁の歌謡曲を一般公開され、CD も販売されている。今回、掲載を許可して頂いたオリジナル曲（山形弁）の歌詞を挙げる。

(22) 笑っでだのがつれぇなよ
笑顔減った気がすんだんず
無感情人間さなっだぐねぇなよ
現実受け入れるため
今はただがむしゃらでいだ
なんかそれさ気づいだら
号泣っしたっけは
[東京　～山形弁だべ～]

(23) 予想もすねっけみでぇな出来事の連続
泣いだって泣いだって涙ねぐならねくて
もぅ光さすごとねえど思てっけ
真っ暗な毎日もあっけ
[ありがとさま（ありがとう～山形弁だべ～）]

(24) ありがとさまありがとさま
重ねだ日々は全部宝もの
ありがとさまありがとさま
届げでぇおっきぐありがとさま
[ありがとさま（ありがとう～山形弁だべ～）]

下線に示した通り、ほぼすべての歌詞が山形弁になる。ここに掲載した 2 曲も、先の「島唄」と同じく共通語歌詞と山形弁歌詞の両方があり、分からない表現がある場合には共通語歌詞を聴けばおおよその意味が明らかになる。

ここまでに挙げた 3 曲を見ると、方言が単語レベルになるなど共通語とかけ離れている場合は、共通語の歌詞でも歌われる、つまり方言化歌謡曲と同じように、訳のような歌詞が見られるようである。これに対し、「俺ら東京さ行くだ」のように方言の歌詞しか存在しない場合は、意味（共通語）が容易に読み取れる可能性が高いと思われる。

5. 考　察

以上の通り、方言を取り入れた歌謡曲を見てきた。ここでは、主に方言化された歌詞について考察する。

もともと共通語の歌詞を方言に変換する場合、共通語を大きく変えても元の歌詞があるため、意味が通じると考えられる。一方で、歌詞を大きく変換することにも魅力があるのではないかと思われる。

歌詞が大きく変えられるとき、2 つのパターンがあるように思われる。1 つは、「元の歌詞を残し、単語レベルで変換する」パターンである。また、単語レベルでも、(a)(b)のような違いが見られる。

(a) 可愛い　→　めげぇ（津軽弁）
タッチ　→　ちょす（山形弁）
私　→　うち（広島弁）
君　→　われ（広島弁）
あた（熊本弁）

(b) 夢　→　夢っこ（津軽弁）
きちっと→　きぢっと（津軽弁）
古い　→　古か（熊本弁）

上の変換例を見比べたとき、(a)のほうが、(b)に比べて共通語が推測しにくくなっていると考えられる。

もう 1 つは、「元の歌詞がほぼ残らない」パターンである。

(c) 好きだと言ってるじゃないの　→　はんなりするならええけど（京都弁）
シンデレラさ　→　おてもやんさい（熊本弁）

ただしこの場合も、歌詞の内容が完全に書き換えられているわけではないと思われる。「はんなりするならええけど」は好意があることを匂わせる内容になっており、「おてもやん」も

シンデレラに近い存在として取り上げられていると考えられる。

また、これまでにも挙げた通り、新しい歌詞を追加する場合も見られる。

(d)　僕を愛してる　→　僕をてげ愛しちょる（宮崎弁）

これは、(c)に近く、元の歌詞を意訳しているように思われる。また、音楽と文字数の関係もあると考えられる。

4-3 で取り上げた八戸弁の方言化歌謡曲も、「あっちへ行って」という台詞が「あっちゃいけ！　ごんぼほんな」と換えられており、「ごんぼほる（だだをこねる）」という言葉が付け足されている。

特にトーナメント形式で勝敗が決まるとなれば、元の意味から多少逸脱しても、積極的に方言を用い「遊び心」のある作品に仕上げる必要もあると考えられる。

ところで、もともとは共通語である言葉（歌謡曲の場合は歌詞）を方言化するという試みについては、未だ定義づけはなされていないように思われる。

方言によってその地域「らしさ」を強調するという点では、金水敏(2003)の「役割語」[3]や、田中ゆかり(2011)の「方言コスプレ」と関わりがありそうに思われる。

「役割語」は「その人物がいかにも使用しそうな言葉遣い」を指し、「方言コスプレ」は「話し手自身が本来身につけている生まれ育った土地の「方言」（生育地方言）とは関わりなく」方言を演出することとされる。方言化歌謡曲は、話し手自身が本来身につけている生まれ育った土地の方言を基としている点で、ありもしない言葉をそれらしく用いるのとは異なるが、方言化されている歌詞がすべて日常生活で頻繁に用いられる方言かというと、そうではないと思われる。たとえば、津軽弁の方言化歌謡曲では「ひと（人）」が「ふと」と換えられているが、3 年間青森県八戸市に在住して、「ふと」を聞いたことは未だにない。

「ひと」が「ふと」とされることを踏まえると、今回取り上げた方言を取り入れた歌謡曲は、その地域の人々が聴くと確かに自分たちの地域の方言であるということに気付き、また、「面白さ」「楽しさ」を掻き立てられるものであるが、完全に日常で使う方言のみで作られているかというとそうではなく、方言を「演出」している部分もあるといえるのではないだろうか。

6. 方言を取り入れた歌謡曲等に対するイメージ調査

本稿でテーマとした方言を取り入れた歌謡曲は、若年層にどのようなイメージを持たれるのか。高校生と大学生を対象として、アンケート調査を合計 3 回行った。参考のため、第 2 回目に行ったアンケート用紙を本稿末尾に付す。

以下、日付が早いものから順に、第 1 回、第 2 回、第 3 回とする。以下、アンケートの概要を示す。

第 1 回
日付：2014 年 11 月 5 日
実施した講義：方言をテーマとした体験講義
アンケート対象者：八戸市の高校 1 年生 53 名

第 2 回
日付：2014 年 11 月 27 日
実施した講義：方言をテーマとした講義
アンケート対象者：八戸市の大学 1 年生 25 名

[3] 金水敏(2003)で、以下の通り定義されている。
ある特定の言葉遣い（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができるとき、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。（p.205）

第 3 回
日付：2014 年 12 月 5 日
実施した講義：国語系検定試験対策講義
アンケート対象者：八戸市の大学 2～3 年生 16 名

第 1 回アンケートについては、出身地等が判別できない回答が 6 名分あり、有効回答数は 47 であった。第 2 回、第 3 回アンケートは、アンケート対象者数と有効回答数は同数である。

アンケート対象者の年齢は、15 歳～20 代前半である。

続いて、出身地について補足する。

第 1 回アンケートは、青森県 40 名(89.3%)、八戸市 27 名(57.4%)である。その他、岩手県 2 名、北海道 1 名、秋田県 1 名、沖縄県 1 名である。

第 2 回アンケートは、青森県 20 名(80.0%)、八戸市 12 名(48.0%)である。その他、秋田県 4 名、山形県 1 名である。

第 3 回アンケートは、青森県 12 名(75.0%)、八戸市 9 名(56.2%)である。その他、岩手県 1 名、秋田県 1 名、宮城県 1 名である。

性別は、第 1 回については不問であったため、第 2 回以降改善した。第 2 回は 15 名が男性、9 名が女性、未回答 1 名である。第 3 回は男性 15 名、女性 1 名である。

また、第 1 回と第 2 回は方言をテーマとする講義であり、方言に興味を持った生徒ならびに学生が受講しているが、第 3 回は国語系の検定試験受検を目的とした検定対策講義であり、方言に必ずしも興味を持っているとは限らない学生に対して実施した。以下では、アンケートに対する回答を分析する。

なお、このアンケートは、回答者の同意を得て実施した。

6-1. 方言に対するイメージ

方言化歌謡曲に対するイメージや感想について尋ねるにあたって、まず、「1．方言に対するイメージを教えてください。（複数回答可）」という質問を設けた。イメージは選択制にし、項目は「その他」を含む次の 13 項目とした（田中ゆかり(2011)を参照）。

①かっこいい　②かっこ悪い
③かわいい　④かわいくない
⑤おもしろい　⑥つまらない
⑦洗練されている　⑧素朴
⑨あたたかい　⑩冷たい
⑪怖い　⑫やさしい
⑬その他（　　）

これらの項目を見たとき、概ねプラスイメージの項目とマイナスイメージの項目に分かれる。「①かっこいい」「③かわいい」「⑦洗練されている」「⑨あたたかい」はプラスイメージ、「②かっこ悪い」「④かわいくない」「⑥つまらない」「⑩冷たい」「⑪怖い」はマイナスイメージと考えられる。どちらともいえないのが「⑤おもしろい」「⑧素朴」である。これらは、人によって、プラスともマイナスとも成り得るのではないかと考えられる。

第 1 回アンケートの結果を図で示すと、次の通りである。

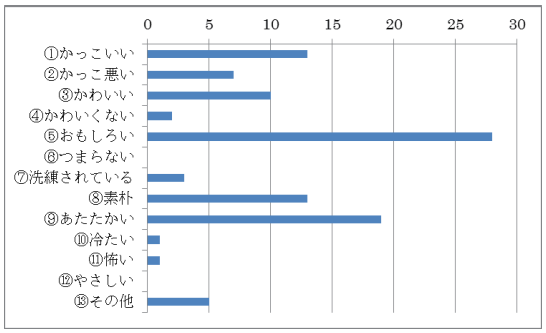

図 4　方言に対するイメージ（第 1 回アンケート）

最も多く選ばれたのは「⑤おもしろい」で、28 である。次いで「⑨あたたかい」が 19、

「①かっこいい」と「⑧素朴」が 13、「③かわいい」が 10 である。ここまで、プラスマイナスどちらとも取れる項目と、プラスイメージの項目が選ばれている。

選ばれた数が 10 以下の項目は、「②かっこ悪い」7、「④かわいくない」2、「⑦洗練されている」3 で、「⑩冷たい」「⑪怖い」がそれぞれ 1 である。マイナスイメージの項目は、「面白い」「素朴」やプラスイメージの項目よりも、選ぶ人数が少なかったことが明らかである。

選ばれなかったのは、「⑥つまらない」と「⑫やさしい」である。

第 2 回アンケートの結果を図で示すと、以下の通りである。

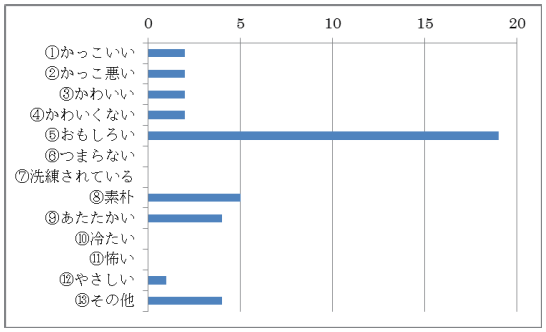

図 5　方言に対するイメージ（第 2 回アンケート）

最も多く選ばれたのは、第 1 回と同じく「⑤おもしろい」で、19 である。次いで、「⑨あたたかい」9、「⑧素朴」5 であり、これも第 1 回アンケートの結果とほぼ同じとなった。続いて「⑫あたたかい」3、「①かっこいい」「③やさしい」がともに 2、「②かっこ悪い」2、「④かわいくない」「⑥つまらない」1 となった。

選ばれなかったのは、「⑦洗練されている」「⑩冷たい」「⑪怖い」である。

第 3 回アンケートの結果を図で示すと、次の通りである。

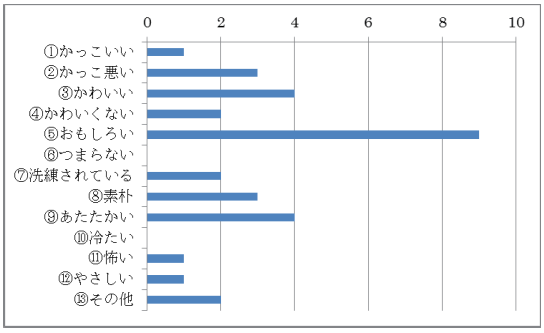

図 6　方言に対するイメージ（第 3 回アンケート）

最も多く選ばれたのは第 1 回・第 2 回と同じく「⑤おもしろい」で、9 である。次いで、「⑨あたたかい」「③かわいい」が 4 である。「②かっこ悪い」3、「⑧素朴」3、「⑦洗練されている」2、「④かわいくない」2、「①かっこいい」「⑪怖い」「⑫やさしい」がそれぞれ 1 である。

選ばれなかったのは、「⑥つまらない」「⑩冷たい」である。

第 1 回から第 3 回までのアンケート結果を総合して図で示すと、次の通りである。

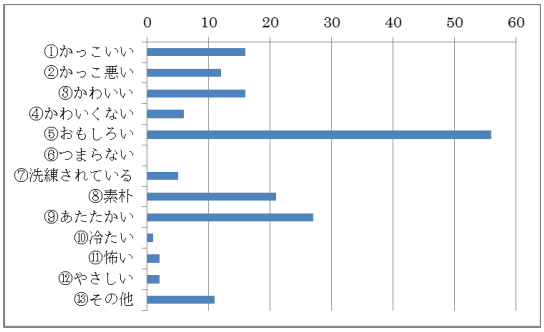

図 7　方言に対するイメージ（総合）

3 回のアンケートを通して最も多く選ばれたのは、「⑤おもしろい」である。「おもしろい」は、「興味深い」とも「滑稽」とも取れ、このアンケートではいずれに当たるかを確認することはできない。しかし、3 番目に選ばれたのが「⑧素朴」である点からも考えて、東北地

方の若者の方言に対するイメージは、まだプラスかマイナスか決まりかねるように思われる。

一方で、2 番目に多く選ばれたのは「⑨あたたかい」である。「⑨あたたかい」が選ばれるのと相対して「⑩冷たい」を選ぶ人が少ないのは、妥当な結果であるといえる。一方、上述の通り「③かわいい」は第 1 回・第 3 回アンケートで 3 番目につけている一方、「かわいくない」という評価も得られている。割合でみるとマイナスイメージのほうが低いが、第 2 回・第 3 回アンケートを見ると、「かわいい」と「かわいくない」がほぼ同数となっている。

総じてプラスイメージの項目のほうが、マイナスイメージの項目よりも選ばれているが、今回は、自身の用いる方言に対するイメージといった制限は設けておらず、実際、「⑬その他」で「地域による」という回答も見られた。

6-2. 方言の使用について

岩崎真梨子(2014)によると、八戸市在住の 20 代の若者[4]は、方言辞典に挙げられるような典型的、代表的な方言を既に「知らない、聞いたこともない」と答えることが多いことが明らかになった。今回のアンケート対象者についても、方言に対するイメージや、方言化歌謡曲に対するイメージ、感想を抱いたとしても、そもそも方言を身近だと感じていない可能性があると考えた。そこで、「あなたは普段、方言を使っていると思いますか。」という質問を設けたところ、**表 1** のような結果となった（小数点第 2 位以下切り捨て。以下同じ）。

表 1　普段、方言を使っていると思うか

	①思う	②思わない	③どちらともいえない
第1回	20(42.5%)	8(17.0%)	19(40.4%)
第2回	10(40.0%)	8(32.0%)	7(28.0%)
第3回	7(43.7%)	3(18.7%)	6(37.5%)

第 1 回と第 3 回では、「①思う」と「③どちらともいえない」の割合がやや高く、「②思わない」の 2 倍以上である。

第 2 回のみ「①思う」が最も高く、「③どちらともいえない」が最も低くなった。しかし、各項目通して大きな差はない。

図で示すと、以下のようになる。

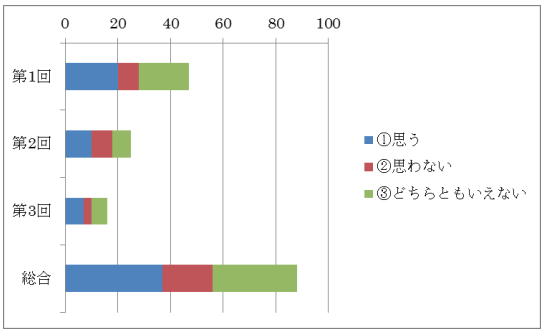

図 8　普段、方言を使っていると思うか

全体を通して、「②思わない」の割合が低いが、「③どちらともいえない」の割合が高い点に着目される。これについては、第 1 回・第 2 回講義で「方言であるのに、「話し手が共通語だと思い込んで使っている言葉」いわゆる「気づかない方言」（篠崎(2008)による）に関する内容を扱っているため、「普段使っている言葉が方言なのかどうか分からない」可能性や、改まった場面では方言を使わないといった「使い分け」を視野に入れた可能性が考えられる。質問に「３．①思う　と答えた方は、自分の方言についてどんな印象を持っていますか。」を設けたところ、第 2 回アンケートで「あまり使いたくないと思っているが自然に言ってしまう。」との返答があった。

続いて、「４．あなたは、方言を使いたいと思いますか。」は、次頁**表 2** のような結果となった。

[4] 出身地域は、北海道から北東北、山形、福島、埼玉にまで亘るが、割合が高いのは青森県であった。

表 2　方言を使いたいと思うか

	①思う	②思わない	③どちらともいえない
第1回	23(48.9%)	6(12.7%)	18(38.2%)
第2回	7(28.0%)	7(28.0%)	11(44.0%)
第3回	5(31.2%)	3(18.7%)	8(50.0%)

第 1 回は、「①思う」が最も高い。第 2 回は「①思う」と「②思わない」が同数で、「③どちらともいえない」の割合が最も高い。第 3 回も、「③どちらともいえない」の割合が最も高い。

図で示すと、以下のようになる。

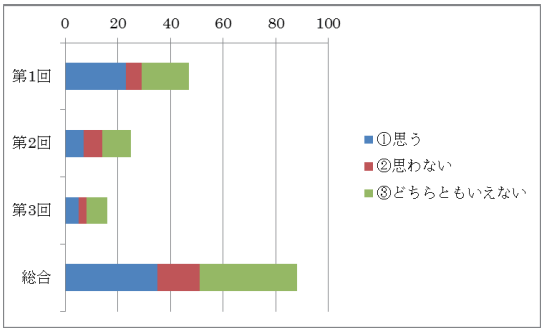

図 9　方言を使いたいか

「方言を使いたいか」という質問でも、「②思わない」の割合が低いが、ここでも「③どちらともいえない」の割合が高いという結果になった。先ほどの「方言を使っていると思うか」でも③の割合が高かったことを踏まえると、自然な結果であると考えられる。

6-3. 方言を取り入れた歌謡曲について

質問 6 では、「方言を取り入れた歌謡曲のイメージ」について尋ねた。方言のイメージについて尋ねたときと同様、複数回答可とした。

方言を取り入れた歌謡曲のイメージについては、講義内の限られた時間でのアンケート実施であることを考慮し、自由記述や多数の項目を設けることは避けた。イメージは「おもしろい」「つまらない」のみとし、他に「共通語のほうがいい」「方言のほうがいい」という項目を設けた。結果は**表 3** のようになる。

表 3　方言を使った歌のイメージ

	①おもしろい	②つまらない	③共通語のほうがいい	④方言のほうがいい
第1回	41	0	0	3
第2回	20	1	4	2
第3回	7	0	4	2
総合	68	1	8	7

「①おもしろい」という回答が総合で 68 と圧倒的に多いが、一方で、「共通語のほうがいい」という回答も得られた。

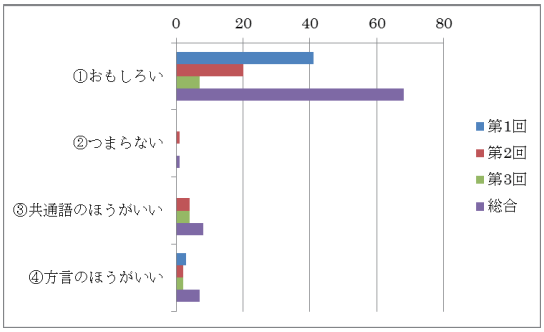

図 10　方言を使った歌のイメージ

この結果は、これまでの質問内容の結果と相関しているように思われる。「おもしろい」というイメージは、アンケート対象者の方言に対するイメージと重なる。一方で、日常的に方言を使っているか、使いたいかといった問いに対しては、「どちらともいえない」といった消極的な回答の割合が高い。方言や、それを取り入れた歌謡曲などは、青森県とその周辺の 20 代若者にとって、「おもしろい」とは思うものの、それが方言を積極的に受け入れ、用いることとはまた別なのではないかと考えられる。

7. おわりに

以上、方言を取り入れた歌謡曲の実態を調査

し、そういった歌謡曲が若者にどのようなイメージを持たれるかについて、アンケート結果を見てきた。

方言を取り入れた歌謡曲は、幾つかの地域には存在しない可能性もあるが、おおよそ全国的に見られるようである。一方で、多く見られる地域は東北や九州といった、方言の残存率が高い地域であるという特徴がある。

共通語の歌詞を方言に換える試みでは、助詞や清濁、単語レベルでの変換など様々工夫されている。また、元の歌詞の内容を大きく換えてアレンジしたり、元の歌詞にはない内容を付け足したりして「遊び」の要素が盛り込まれる場合もある。

こういった方言を取り入れた歌謡曲について、八戸市在住の10代から20代の若者にアンケートをとったところ、「おもしろい」と感じるという回答が多く得られた。これは、「方言」に対するイメージとも一致した。しかし、「おもしろい」は、「興味深い」というポジティブなイメージにも取れるし、「滑稽だ」というネガティブなイメージにも取れる。また、方言を使っているか、使いたいかといった質問に対して、「①思う」と「③どちらともいえない」の割合が高く出る傾向にあることから、自身の方言には消極的になることもあるが、一方で、娯楽としての方言（方言化歌謡曲のようなもの）には興味・関心を抱くという見方もできることが明らかになった。

今回は、アンケート調査にかける時間が限られていたため、地元の方言や地元以外の方言といった特定をせず、ただ「方言について」という質問になったが、今後改めてアンケートを取る際には、話者の方言のイメージと、その他地域の方言のイメージの双方を調査する必要があると考える。

APPENDIX

日本音楽著作権協会(出)許諾第1416327-401号

謝　辞

「全日本なまりうたトーナメント」の歌詞・曲名の掲載の許可をくださったテレビ朝日視聴者センター様、朝倉さや氏の歌詞掲載の許可をくださった株式会社　Solaya Label　担当者山本夏海様、「デーリー東北」新聞記事の引用にご尽力頂いたデーリー東北新聞社　広瀬知明様、ならびに掲載許可をくださった執筆者の石橋春海様、以上の方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

また、アンケートに協力してくれた生徒、学生の皆さんに感謝申し上げます。

参 考 文 献

1) 井上史雄，田中宣廣，日高貢一郎， 山下暁美，大橋敦夫:魅せる方言　―地域語の底力 (Word-Wise Book),三省堂,2013.

2) 九州方言研究会編: これが九州方言の底力！, 大修館書店,2009.

3) 金水敏: ヴァーチャル日本語　役割語の謎，岩波書店, 2003.

4) 田中ゆかり:「方言コスプレ」の時代,岩波書店,2011.

5) 柴田武:日本の方言,岩波書店,1958.

6) 真田信治:方言の日本地図　ことばの旅,講談社,2002.

7) 佐藤亮一編: 都道府県別全国方言辞典,.三省堂,2009.

8) 篠崎晃一: 出身地がわかる！ 気づかない方言，毎日新聞社, 2008.

9) 岩崎真梨子: 若者と方言, 八戸工業大学紀要 33, pp.147-166,2014.

要　旨

近年、共通語の歌謡曲を方言に変換する方言化された歌謡曲が見られるようになった。テレビ番組で放送されるなど、一般的になりつつある。本稿では、そういった方言を取り入れた歌謡曲について調査した。

方言を取り入れた歌謡曲は、幾つかの地域には存在しない可能性もあるが、おおよそ全国的に見られる。また、方言を取り入れた歌謡曲が多く見られるのは、東北や九州といった、方言の残存率が高い地域である。また、方言や、方言を取り入れた歌謡曲への関心やイメージについて、八戸市在住の若者にアンケートをとったところ、自身の方言には消極的な面があるが、一方で、娯楽としての方言には興味・関心を抱くことが明らかになった。

キーワード : 方言，歌謡曲，アンケート，若者と方言

方言を取り入れた漫画や歌謡曲に関するアンケート

出身地（　　）県（　　）市・町・村　　性別：男・女（該当するほうに〇）

以下のアンケートにお答えください。各項目について、該当する番号に〇をつけてください。
なお、このアンケートは、研究以外の目的には使用しません。

1．方言に対するイメージを教えてください。（複数回答可）

①かっこいい　②かっこ悪い　③かわいい　④かわいくない
⑤おもしろい　⑥つまらない　⑦洗練されている　⑧素朴
⑨あたたかい　⑩冷たい　⑪怖い　⑫やさしい
⑬その他（　　）

2．あなたは普段、方言を使っていると思いますか。

①思う　②思わない　③分からない

3．①思う　と答えた方は、自分の方言についてどんな印象を持っていますか。

4．あなたは、方言を使いたいと思いますか。

①思う　②思わない　③どちらともいえない

5．方言を使った漫画についてどういうイメージを持ちましたか。（複数回答可）

①おもしろい　②つまらない　③共通語のほうがいい　④方言のほうがいい
その他（　　）

6．方言を使った歌についてどういうイメージを持ちましたか。（複数回答可）

①おもしろい　②つまらない　③共通語のほうがいい　④方言のほうがいい
その他（　　）

7．こういう方言の歌があればいいな、というのがあれば教えてください。（自由記述）